

新潟県中之島町

高畑遺跡

1999.3

中之島町教育委員会

新潟県中之島町

高 畑 遺 跡

1999.3

中之島町教育委員会

序

中之島町は、広大な越後平野の南部に位置しており、町全体はほぼ平坦である。かねてから稲作が基幹産業として米所中之島と言われて栄えてきた、人口1万3千余の町である。この度の、中之島町大字高畑字屋敷付他の地内で広域営農団地農道整備事業が計画された。この計画予定地内の周辺には、県教育委員会周知の遺跡が存在している。

県のご指導もあり、町の中部・南部地区のは場整備事業に関わる分布調査が、平成9年3月24日から26日にかけて実施された際に、上述の広域農道予定地内の全域で遺物が採集されている。

その結果、農道予定地内に遺跡の存在が確認されたのである。そこで正確な記録のために本調査の実施の運びになった。

県（三条農地事務所）との協議により、中之島町教育委員会が主体となって調査することとなった。調査日は平成10年10月12日から11月9日である。

調査の結果910点の遺物と土坑1基、それに柱穴状の遺構2基を検出した。

担当者によれば、遺物のほとんどは古墳時代前期のものと思われるし、高坏・壺などの祭事的な遺物が多く出土したとの由である。

昭和50年に北陸高速道建設に伴う同じ杉之森地内の遺跡で採取された遺物と同年代のものと考えられると言う調査結果も報告されている。

いつものことながら、難儀な調査にそれぞれの立場でご協力いただいた皆様様に心から感謝申し上げて、序文とする次第である。

平成11年3月

中之島町教育委員会

教育長 五十嵐 昭 治

例 言

1. 本書は新潟県南蒲原郡中之島町大字高畑字屋敷付603番地1他に所在する高畑遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は県営広域営農団地農道整備事業南蒲原南部地区に伴う事前調査として実施した。
3. 調査は新潟県の委託を受け、中之島町教育委員会が調査を実施した。
4. 調査作業は1998（平成10）年10月12日～11月9日まで、整理作業は11月16日～1999（平成11）年3月19日まで実施した。
5. 本書の執筆は小林徳が担当した。
6. 調査体制は以下の通りである。

調査主体	中之島町教育委員会	教 育 長	五十嵐 昭 治
調査指導	新潟県教育庁文化行政課		
調査担当	中之島町教育委員会	主 事	小 林 徳
事 務 局	〃	事務局長	浅 野 辰 昭

7. 発掘調査から本書の作成に至るまで以下の諸氏、諸機関に御教示・御協力を賜った。厚く御礼申し上げる次第である。また、高畑集落の住民には調査全般にわたって協力をいただいた。重ねてお礼を申し上げます。（五十音順・敬称略）

小林高士・佐藤由・澤田敦・中村巖・樋山一夫・樋山仁士・樋山宏・山田太計治

㈱小林設計事務所・㈱テック新東・新潟県三条農地事務所・㈱丸月組・㈱吉田電設

凡 例

1. 挿図中の方位は座標北である。
2. 本書に使用した地形図は以下の通りである。
第1図 国土地理院5万分の1 『三条』
3. 本遺跡の略称はTBである。
4. 遺構の水糸レベルは全て14.8mに統一した。
5. 挿図の縮尺は以下の通りである。

遺構	土坑・ピット	1/30
遺物	土器・石器	1/4

目 次

序

例言／凡例／目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	1
第3章 調査経過	3
第4章 基本層序	3
第5章 遺構と遺物	14
第1節 遺構	14
第2節 遺物	14
第6章 まとめ	17
抄録	22

挿 図 目 次

第1図 高畑遺跡周辺の遺跡	序
第2図 遺跡位置及びトレンチ設定図	2
第3図 遺構配置図	2
第4図 基本土層図	4
第5図 土坑	5
第6図 1号ピット	5
第7図 2号ピット	5
第8図 C-2グリッド出土遺物	7
第9図 D-1グリッド出土遺物	7
第10図 D-2グリッド出土遺物	7
第11図 E-2グリッド出土遺物	9
第12図 F-1グリッド出土遺物	9
第13図 F-2グリッド出土遺物	9
第14図 G-2グリッド出土遺物	9
第15図 第4トレンチ出土遺物	11
第16図 H-2グリッド出土遺物	11
第17図 II-2グリッド・I-2グリッド遺物集中区出土遺物(1)	11
第18図 H-2グリッド・I-2グリッド遺物集中区出土遺物(2)	13
第19図 K-2グリッド出土遺物	13
第20図 L-2グリッド出土遺物	13
第21図 遺物分類図	19

写真図版目次

図版1 遺跡近景・遺跡周辺風景

図版2 A区完掘状況・B区完掘状況

図版3 C区完掘状況・遺物出土状況

図版4 遺物出土状況・基本層序

図版5 土坑層序・土坑

図版6 1号ピット層序・1号ピット

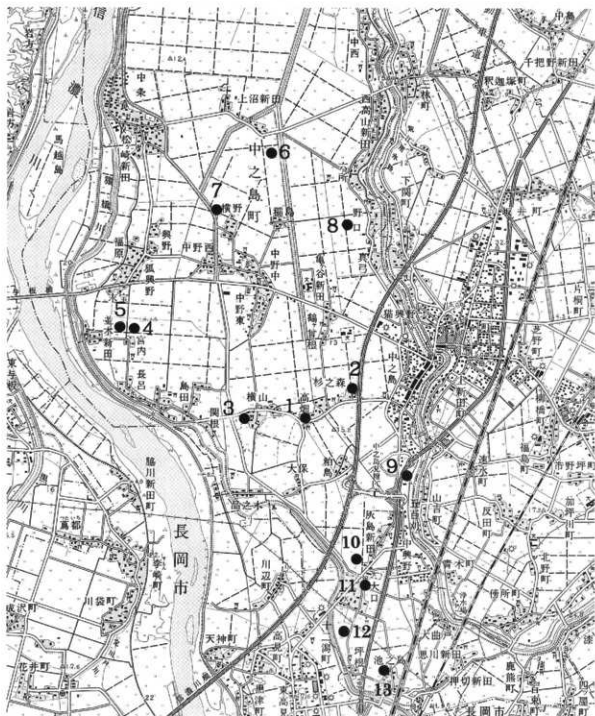
図版7 2号ピット層序・2号ピット

図版8 遺構外出土遺物(1)

図版9 遺構外出土遺物(2)

図版10 遺構外出土遺物(3)

図版11 遺構外出土遺物(4)・個体35羽殻痕



1. 高畑 2. 杉之森 3. 横山 4. 宮内館跡 5. 古宮 6. 観音寺 7. カジヤシキ
8. 野口 9. 藤十郎 10. 居掛 11. 大口 12. 坪根 13. 瀬乃島



(1/50,000)

第1図 高畑遺跡周辺の遺跡

第1章 調査に至る経緯

中之島町大字高畑字屋敷付他の地内で県営広域営農団地農道整備事業南蒲原南部地区が計画され、1997（平成9）年より一帯の分布調査及び試掘調査を事業主である新潟県の依頼により行ってきた。1998（平成10）年度までの調査においては遺跡と認定し得る地点は確認できなかった。しかし、1998（平成10）年、県教育庁文化行政課の指導を仰ぎ、5月26日県教育庁文化行政課の澤田主任調査員と中之島町教育委員会により試掘調査を行った。当地点は1972（昭和47）年に行われた分布調査にて確認された「高畑遺跡」に隣接していたため、遺跡である可能性が高かった。調査の結果、古墳時代前期を中心とした多くの遺物が検出された。

この調査の結果を受けて、町教育委員会は県教育庁文化行政課と事業主である三条農地事務所と協議し、激しく破壊されている地点を除く地点の本調査を行うこととなった。なお、隣接していた「高畑遺跡」と年代等も近いこともありそれまで確認されていた「高畑遺跡」の範囲を拡大し、正式に「高畑遺跡」として認定された。

調査は中之島町教育委員会が主体となり、県教育庁文化行政課の指導のもと三条農地事務所の全面的な援助・協力により県営広域営農団地農道整備事業として同年10月12日より発掘調査を実施することとなった。

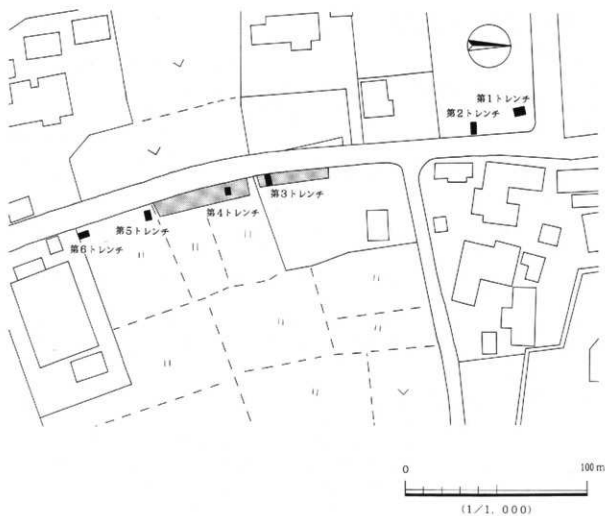
第2章 遺跡の位置と環境

中之島町は北緯37度30分から同34分、東経138度49分から同54分の間で南北に長い長方形に広がり、南蒲原郡の南西部に当たる。東側には刈谷田川、西側には信濃川に挟まれる三角洲状の沖積地を形成し水田に適した地となっている。また、標高は南部の最高位で15.1m、北の最低位9.1mとなっており、全体的には平坦である。

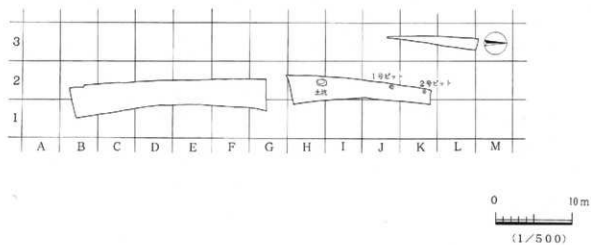
中之島町は川に挟まれるというその地形的制約から弥生時代以前の遺跡は確認されておらず、古墳時代前期以降の遺跡が杉之森地区から横山地区にかけての微高地に点在している。いまだはっきりとした遺構は発見されておらず包含層からの土器片が今回調査した高畑遺跡（1）や1975（昭和50）年に新潟県教育委員会によって調査された杉之森遺跡（2）において出土している。また、町の南部大口地内（11）の微高地においても古墳時代後期の土師器の甕形土器の破片が採集されている。

古墳時代以降は大口地内の微高地ではロクロ成型による土師器の長胴甕形土器片や須恵器の甕形土器片が採集されており、大口から南に1kmに位置する池之島地内の微高地には平安時代前期頃の須恵器の甕形土器・甕形土器の破片も採取されており、徐々に人が生活し始めている様子が窺われる。

この後の時代においても中世の陶質土器を伴う土坑や溝を検出した杉之森遺跡（2）・1995（平成8）年に調査され9世紀の須恵器、木器が土坑・溝より検出され、地震による噴砂跡が確認された観音時遺跡（6）や横野地内に1958（昭和33）年頃に鉾津が出土され城館跡だといわれているカジャシキ遺跡（7）等も存在している。現在までの調査においてはその数が少なくいまだ不明点が多い。今後の調査とその成果が待たれるところである。



第2図 遺跡位置及びトレンチ設定図



第3図 遺構配置図

第3章 調査経過

当該地は遺跡が道路により分断されるような格好になっている。このため東側を南部のA区北部のB区に分け、西側をC区とした。調査は天候に恵まれ発掘調査は1998年10月12日から11月9日までの実働日数20日で行った。

以下、日数抄的に日を追って記載する。

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| 10月12日（月） | 重機により表土剥ぎを行う。 |
| 13日（火） | 発掘調査現場へ器材搬入。仮設事務所の設置（委託）。 |
| 14日（水） | A区にて遺構確認作業開始。 |
| 20日（火） | C区にて遺構確認作業開始。 |
| 27日（火） | C区の土層観察及び全景撮影。 |
| 29日（木） | A区の土層実測。 |
| 30日（水） | A区全景撮影。 |
| 11月2日（月） | B区にて遺構確認作業開始。土坑が検出され、発掘作業に着手。 |
| 5日（木） | ビット1・ビット2検出。発掘作業に着手。 |
| 6日（金） | B区の土層実測。 |
| 9日（月） | B区全景撮影。本日をもって発掘作業を完了する。 |
| 12日（水） | 器材搬出。 |

第4章 基本層序

調査区A区・B区の現況は水田であり、C区は荒蕪地であった。

調査区内の基本層序は地山まで5層に分層される。

第Ⅰ層 耕作土 青灰色粘土層で、水田地帯などに多いグライ土壌と思われる。

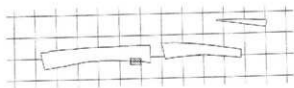
第Ⅱ層 灰白色粘土層 第Ⅰ層の影響を受けた層。粘性は第Ⅰ層よりも弱く灰色粘土のブロックが大量に含まれる。

第Ⅲ層 明赤色土層 赤色粒子・灰色粒子を含み、堅く締まった土層。

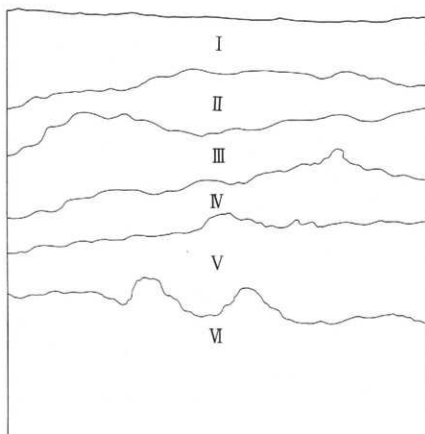
第Ⅳ層 明赤色土層 赤色粒子・灰色粒子を含むという点では第Ⅲ層に似ているが、締まりは弱く微量ながら炭化物粒子を含む。

第Ⅴ層 暗赤色土層 暗赤色ブロックと赤色粒子を多量に含み、灰色粘土ブロックと黒色粒子も少量ながら含む。また下層にいくほど炭化物粒子を多く含むようになる。古墳前期と見られる遺物の包含層である。

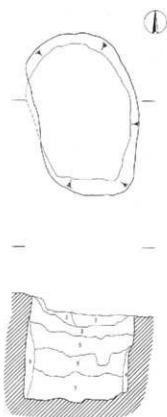
第Ⅵ層 暗赤色土層 基本的には第Ⅴ層と変わらないが炭化物粒子の量は少なく締まりが強くなる。



14.5 m

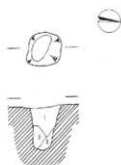


第4图 基本土层图 (1/10)



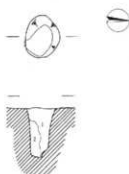
層位	色調	しまり	結性	含有物
1	灰色粘土層	やや強	やや弱	褐色粒子 (0.5~2mm) 少量 黄色粒子 (0.5~2mm) 少量
2	灰色粘土層	やや弱	強	褐色粒子 (5mm) 少量 黄色粒子 (0.5~3mm) 少量
3	黄灰色粘土層	中	弱	褐色粒子 (0.5~2mm) 少量 黄色粒子 (0.5mm) 少量 粘土ブロック (10~20mm) 少量
4	赤褐色粘土層	やや強	弱	褐色粒子 (5~10mm) 少量 褐色粒子 (0.5~1mm) 少量
5	暗青灰色粘土層	強	やや強	褐色粒子 (5mm) 少量 赤色粒子 (1mm) 少量
6	白色粘土層	やや強	強	白色粘土ブロック (10~15mm) 少量 褐色ブロック (5~10mm) 少量
7	暗青灰色粘土層	中	強	白色粘土ブロック (10~15mm) 少量 粘土ブロック (10~15mm) 少量

第5図 土杭



層位	色調	しまり	結性	含有物
1	赤褐色粘土層	強	弱	褐色粒子 (0.5~1mm) 少量 赤色粒子 (0.5mm) 少量
2	暗青褐色粘土層	強	やや強	黄色ブロック (10~15mm) 少量 褐色粒子 (0.5mm) 少量
3	黄褐色粘土層	中	弱	褐色粒子 (0.5mm) 少量 黄色ブロック (10~15mm) 少量

第6図 1号ビット



層位	色調	しまり	結性	含有物
1	赤褐色粘土層	やや強	弱	褐色粒子 (0.5~1mm) 少量 赤色粒子 (0.5~1mm) 少量
2	暗青褐色粘土層	やや強	やや強	黄色ブロック (30mm) 少量 褐色粒子 (0.5~1mm) 少量 黄色ブロック (10~20mm) 少量

第7図 2号ビット

第5章 遺構と遺物

高畑遺跡においては遺構内より一括遺物は出土しなかった。しかし、包含層からの出土はしておりその出土遺物等から、検出された遺構も古墳時代前期頃のものと思われる。

第1節 遺構

土坑1基、ピット2基がB区より検出されたが、A区及びC区においては検出されなかった。

土坑（第5図）

H-2グリッドからI-2グリッドにかけて検出。形態は楕円形を呈し、深さは約68cmになる。調査中も非常に水が溜まりやすかったことから、井戸の可能性もある。

1号ピット（第6図）

J-2グリッドにて検出。多少四隅が角張った円形を呈し、深さは33cmになる。用途等は不明。

2号ピット（第7図）

K-2グリッドにて検出。ほぼ円形をしており、深さは39cmになる。用途等は不明。

第2節 遺物

いずれもグリッド出土遺物である。以下、グリッド毎に説明をしていくが、H-2グリッドとI-2グリッドの境に遺物の集中が見られたため、この地点のみは「H-2・I-2グリッド遺物集中区」として独立させて説明する。

C-2グリッド出土遺物（第8図）

1. 高環形土器個体1

脚部の破片。現高5.6cm。外面は赤彩され、棒状の基部からラッパ状に広がると思われるが端部は欠落している。また大きく広がる部位には横位の寛磨ぎが施される。胎土は白色粒子（0.5～3.0mm）を中量、赤色粒子（1.0mm）・石英（1.0～4.0mm）を少量含む。焼成は良好。

D-1グリッド出土遺物（第9図）

2. 壺形土器個体1

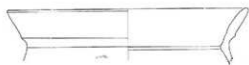
口縁部の破片。現高5.7cm、推定口径24.6cm。内外面ともに淡い赤褐色。口縁部は横ナデをされ、頸部との屈曲部に稜を有する。肩部以下が欠落しているため正確には分らないが、それほど肩部は張らないと思われる。胎土は白色粒子（0.5mm）・砂粒（0.5～2.0mm）を多量、赤色粒子（1.0mm）・小礫（5.0～10.0mm）を中量含む。焼成は良好。

3. 高環形土器個体2

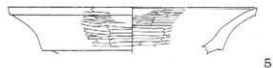
脚部の破片。現高5.2cm。外面は赤褐色、内面は黄白色。棒状になった基部からラッパ状に広く開く。胎



第8図 C-2 グリッド出土遺物



第9図 D-1 グリッド出土遺物



第10図 D-2 グリッド出土遺物

土は白色粒子（0.5mm）を多量、赤色粒子（2.0～3.0mm）・石英（1.0mm）を中量含む。焼成は良好。

D-2 グリッド出土遺物（第10図）

4. 壺形土器個体2

底部の破片。現高3.2cm。底部径は2.2cmと比較的小さい。色調は内外面ともに赤褐色。外面には横位の刷毛目が粗く施される。胎土は白色粒子（0.5mm）・砂粒（0.5～2.0mm）を多量、赤色粒子（1.0～2.0mm）・石英（1.0mm）を少量含む。焼成は良好。

5. 高環形土器個体3

口縁部の破片。現高4.7cm、推定口径25.4cm。色調は内外面ともに暗黄褐色。口唇部が面取りされており、坏部に稜角的に段を作る。内外面ともに横位の磨きながされておき、口唇部上にも磨きなが施される。胎土は白色粒子（0.5mm）・石英（1.0～2.0mm）・砂粒（1.0mm）を中量、金雲母（1.0mm）を微量含む。焼成は良好。

6. 高環形土器個体4

口縁部の破片。現高4.0cm、推定口径18.6cm。外面は暗赤褐色、内面は明赤褐色。外面は縦位の磨きながされるが、一部横位の磨きなが施される。内面にも横位の磨きながされるが、焼成後の影響によるものか調整痕は判然としなない。口唇部には横ナデが施される。胎土は赤色粒子（2.0mm）・石英（3.0～4.0mm）・砂粒（1.0mm）を中量含む。焼成は良好。

7. 高環形土器個体5

坏部の破片。現高3.5cm。色調は外面は赤褐色で内面は淡い赤褐色。口縁部は欠落している。坏部は中位まで外反状になっており横位の磨きながされ、稜を境にナデにより内傾した体部をもつ。内面にも磨きながされ段の下よりナデ調整がされる。胎土は白色粒子（0.5mm）・赤色粒子（5.0～6.0mm）・石英（0.5～1.0mm）を少量含む。焼成は良好。

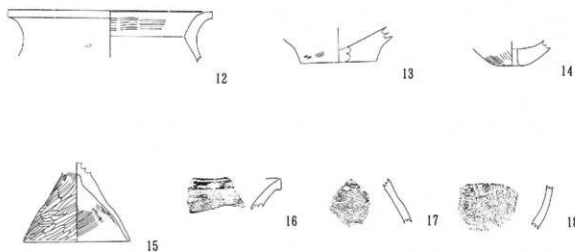
8. 高環形土器個体6

脚部の破片。現高5.2cm。色調は内外面ともに赤褐色。ラッパ状に緩やかに開き縦位の磨きなが施され、下部に直径4mmの穿孔がなされる。赤彩はされていない。胎土は白色粒子（0.5mm）を中量、赤色粒子（0.5mm）・石英（0.5～1.0mm）を微量含む。焼成は良好。

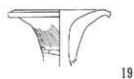
9. 蓋形土器個体1

ほぼ完形の蓋形土器。現高5.4cm、口径12.0cm。外面は黄白色、内面は灰褐色。緩やかに開き多少内彎気味になる。磨きながにより調整されており、一部に赤彩痕があることから、全体的に赤彩されていた可能性は高い。胎土は白色粒子（0.5mm）・砂粒（0.5～1.0mm）を中量、赤色粒子（1.0～2.0mm）・石英（1.0mm）を少量含む。焼成は良好。

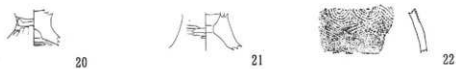
10. 蓋形土器個体2



第11図 E-2 グリッド出土遺物



第12図 F-1 グリッド出土遺物



第13図 F-2 グリッド出土遺物



第14図 G-2 グリッド出土遺物



つまみの部分は欠落。現高4.7cm、口径10.2cm。色調は赤褐色で、比較的平らに広がる。外面には縦位の磨きを施し、内面には横位の磨きと刷毛目を施す。胎土は白色粒子（0.5mm）・砂粒（0.5～1.0mm）を中量、石英（1.0mm～2.0mm）を少量含む。焼成は良好。

11. 壺形土器個体3

胴部の破片。色調は赤褐色。外面には斜めの刷毛目があり、内面には横位の刷毛目を施す。胎土は白色粒子（0.5～1.0mm）・砂粒（1.0～2.0mm）を中量、石英（1.0mm）を少量含む。焼成は良好。

E-2 グリッド出土遺物（第11図）

12. 甕形土器個体1

口縁部の破片。現高4.7cm、推定口径19.0cm。色調は黄白色。口唇部は面取りの後にナデが加えられる。外面には横ナデがされており、胴部には縦位の刷毛目が入る。内面には横位の刷毛目が施される。胎土は白色粒子（0.5～1.0mm）・砂粒（1.0mm）が中量、石英（1.0mm）を少量含む。焼成は良好。

13. 壺形土器個体4

底部片。現高3.1cm、底径7.0cm。色調は黄白色。底は黒色で煤がついているが二次焼成ではないと思われる。下部に弱く刷毛目が施される。胎土は白色粒子（0.5～5.0mm）・黒色粒子（1.0～2.0mm）を中量、石英（1.0～2.0mm）・金雲母（1.0mm）を少量含む。焼成は良好。

14. 甕形土器個体1

底部片。現高2.3cm、穿孔は1.2cm。色調は黄白色。丸底で縦位の刷毛目を施す。胎土は白色粒子（0.5mm）・小礫（3.0～5.0mm）が中量、赤色粒子（1.0～2.0mm）・石英（0.5～2.0mm）を少量含む。焼成は良好。

15. 高坏形土器個体7

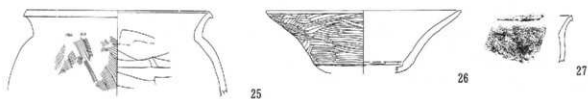
脚部の破片。現高7.3cm、底径9.8cm。色調は外面は赤褐色、内面は暗黄褐色。ハの字状に開いており右下がりの磨きを施し、内面には刷毛目を施す。赤彩はされていない。胎土は白色粒子（0.5mm）が多量、黒色粒子（1.0mm）・石英（0.5mm）を少量含む。焼成は良好。

16. 甕形土器個体2

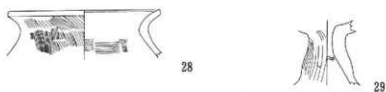
口縁部片。色調は外面は暗黄白色で一部に二次焼成痕が見られる。内面は黒色。口唇部は面取り後に横ナデをしている。頸部には横ナデの後に刷毛目をなし、内面には横ナデを施す。胎土は白色粒子（0.5mm）・石英（0.5～1.0mm）を中量含む。焼成は良好。

17. 甕形土器個体3

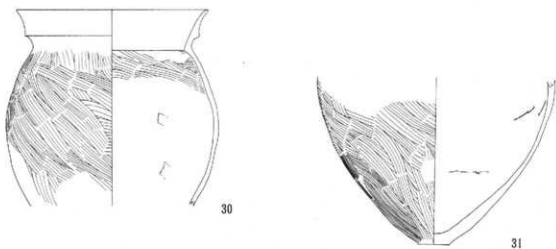
胴部の破片。色調は黄白色。外面には右下がりの刷毛目がなされ、頸部へ向かう箇所に粉殻痕が見られる。内面には横ナデがなされているが、消しきれなかった粘土帯が存在する。胎土は白色粒子（0.5mm）・石英（0.5mm）・小礫（3.0～4.0mm）を少量含む。焼成は良好。



第15図 第4トレンチ出土遺物



第16図 H-2グリッド出土遺物



第17図 H-2・I-2グリッド遺物集中区出土遺物（1）

18. 寛形土器個体4

胴部の破片。色調は暗赤褐色。外面には主に縦方向の刷毛目がなされ、内面には木口状工具によると見られる削り調整が施されている。胎土は石英（0.5～4.0mm）・砂粒（1.0～2.0mm）が多量、白色粒子（0.5mm）・金雲母（0.5mm）・小礫（3.0mm）を少量含む。焼成は良好。

F-1 グリッド出土遺物（第12図）

19. 器台形土器個体1

脚部片。現高5.2cm、口径9.6cm。色調は赤褐色。坏部は比較的小さく、外面には縦位の刷毛目を施し脚部との境に横位の篋磨きを施こしている。胎土は石英（0.5～1.0mm）・砂粒（0.5mm）を多量に含む。焼成は良好。

F-2 グリッド出土遺物（第13図）

20. 高環形土器個体8

胴部の破片。現高3.3cm。色調は赤褐色。坏部との境に横位の、脚部には縦位の篋磨きを施す。内面は横位の刷毛目を施す。外面は赤彩される。胎土は石英（1.0～2.0mm）が中量、白色粒子（0.5mm）・砂粒（0.5～1.0mm）を少量含む。焼成は良好。

21. 器台形土器個体2

脚部片。現高3.5cm。色調は暗赤褐色。外面には横位の篋磨きを施し、内面にも木口状工具により粗く調整がされている。胎土は白色粒子（0.5mm）を中量含む。焼成は良好。

22. 壺形土器個体5

胴部上半の破片。色調は暗黄白色。櫛歯状工具により扇形文が施文される。右端には形が崩れたのか右下がりの櫛歯文も見られる。胎土は雲母（0.5～1.0mm）が多量、白色粒子（0.5mm）・砂粒（1.0mm）が中量含まれる。焼成は良好。

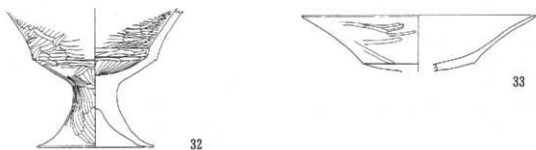
G-2 グリッド出土遺物（第14図）

23. 寛形土器個体5

口縁部～胴部中位までの破片。現高6.1cm、推定口径13.2cm。色調は赤褐色。小型の寛形土器で口縁部には横ナデがされている。胴部には右下がりの刷毛目を施す。胎土は砂粒（1.0～2.0mm）を中量、赤色粒子（2.0～3.0mm）を少量含む。焼成は良好。

24. 高環形土器個体9

口縁部片。現高2.6cm、推定口径29.8cm。色調は赤褐色。内外面ともに横位の篋磨きを施す。胎土は赤色粒子（0.5～5.0mm）を少量含む。焼成は良好。



第18図 H-2・I-2 グリッド遺物集中区出土遺物（2）



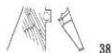
第19図 K-2 グリッド出土遺物



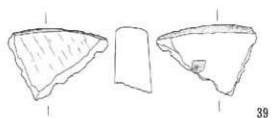
36



37



38



39



第20図 L-3 グリッド出土遺物

第4トレンチ出土遺物 (第15図)

25. 菱形土器個体 6

口縁部～胴部の破片。現高8.8cm、推定口径30.0cm。色調は暗黒褐色。いわゆる「くの字口縁」の寛で、口唇部端部で稜をもつ。口唇部から頸部にかけてはナデ調整が加わり、胴部には右下がりの刷毛目が施される。内面には木口状工具による削りが見られ、また頸部には一部に粘土帯の痕跡を残す。胎土は白色粒子 (0.5mm)・石英 (0.5～1.0mm)・砂粒 (0.5～1.0mm) が少量含まれる。焼成は良好。

26. 鉢形土器個体 1

口縁部～胴部の破片。現高6.5cm、口径20.6cm。色調は赤褐色。口縁部が緩やかに外反し、全体的に横位の磨磨きを施す。内面にナデ調整も加えられる。胎土は白色粒子 (0.5mm) が多量、赤色粒子 (2.0～3.0mm)・砂粒 (1.0mm) を少量含む。焼成は良好。

27. 菱形土器個体 7

口縁部の破片。色調は暗黒褐色。頸部の屈曲は弱く、横ナデが施される。内外面ともに細かな刷毛目がなされ、内面の横ナデと刷毛目の境目には粘土帯痕が存在する。胎土は砂粒 (0.5～1.0mm) を少量、石英 (0.5mm)・金雲母 (0.5mm) を微量含む。焼成は良好。

H-2 グリッド出土遺物 (第16図)

28. 菱形土器個体 8

口縁部片。現高4.8cm、推定口径14.8cm。色調は暗赤褐色。頸部以下に外面には縦位の、また内面には横位の刷毛目が施される。胎土は砂粒 (1.0～2.0mm) を多量に、赤色粒子 (3.0～4.0mm)・石英 (1.0～2.0mm) を少量含む。焼成は良好。

29. 器台形土器個体 3

脚部片。現高は6.3cm。色調は黄白色で、外面には縦位の磨磨きがなされる。内面には一部に横位の削りが施される。胎土は白色粒子 (0.5～1.0mm)・黒色粒子 (1.0mm) を中量、赤色粒子 (1.0mm)・石英 (1.0～2.0mm) を少量含む。焼成は良好。

H-2・I-2 グリッド遺物集中区出土遺物 (第17図・第18図)

30. 菱形土器個体 9

口縁部～胴部下半にかけての破片。現高19.9cm、口径19.6cm、胴部最大径は21.8cm。色調は暗赤褐色。口縁部には内外面の段により二重口縁状に形成されており、横ナデがされる。胴部には縦位の刷毛目の後、右下がりの刷毛目を施す。胴部中位以下には煤が付着する。内面には横位の刷毛目と木口状工具による削りが見られる。胎土は白色粒子 (0.5mm)・砂粒 (0.5～1.0mm) が中量、赤色粒子 (2.0～3.0mm)・石英 (0.5mm) が少量、金雲母 (1.0mm) が微量含まれる。焼成は良好。

31. 菱形土器個体 10

胴部中位～底部の破片。現高16.6cm、底部径3.2cm、胴部最大径は25.4cm。色調は暗赤褐色。外面には縦

位の刷毛目がなされ全体的に煤が付着している。内面には木口状工具による削りも見られる。胎土は白色粒子（0.5mm）・砂粒（0.5～1.0mm）が中量、赤色粒子（2.0～3.0mm）・石英（0.5mm）が少量、金雲母（1.0mm）が微量含まれる。焼成は良好。

32. 高坏形土器個体10

坏部の上半～脚部の破片。現高12.6cm、底部径21.2cm。色調は暗赤褐色。坏部中位に段をもち口縁部にかけて緩やかに外反し、脚部は緩やかに開く。調整は内外面ともに宛磨きをし、全面に赤彩される。胎土は白色粒子（0.5mm）・砂粒（1.0～2.0mm）が中量、石英（1.0～2.0mm）を少量含む。焼成は良好。

33. 高坏形土器個体11

口縁部～坏部下半の破片。現高5.1cm、推定口径21.2cm。坏部下半の段より外反して口縁部に至る。外面には宛磨きがされているが、かなり摩耗しているため判別しにくくなっている。内面には器面を整えるためきめ細かい粘土で覆われている。胎土は白色粒子（0.5mm）・砂粒（1.0～3.0mm）を中量含む。器面は多少脆くなっている。

K-2 グリッド出土遺物（第19図）

34. 高坏形土器個体12

口縁部～坏部中位の破片。現高4.9cm、推定口径19.0cm。色調は赤褐色。内外面ともに宛磨きにより調整されており、全体が赤彩されている。胎土は砂粒（0.5～1.0mm）・石英（0.5mm）を中量含む。焼成は非常に堅く焼かれている。

L-2 グリッド出土遺物（第20図）

35. 甕形土器個体11

口縁部片。現高4.9cm、推定口径14.6cm。色調は赤褐色。口縁部は横ナデされる。内面には初殻痕が存在する。胎土は砂粒（1.0～3.0mm）が中量、石英（0.5～1.0mm）を微量含む。焼成は良好。

36. 甕形土器個体6

胴部中位と思われる破片。現高5.1cm。色調は外面は赤褐色、内面は暗灰褐色。全体に粗い刷毛目が施される。胎土は石英（1.0～2.0mm）・砂粒（1.0～3.0mm）を中量、赤色粒子（1.0mm）を少量含む。焼成は良い。

37. 甕形土器個体7

底部の破片。現高3.7cm、底部径2.8cm。色調は外面は赤褐色、内面は暗赤褐色。外面には刷毛目がなされるが、底部の面には調整等は見られない。胎土は白色粒子（0.5mm）が中量、赤色粒子（0.5mm）・石英（1.0～3.0mm）・砂粒（1.0mm）を少量含む。焼成は良い。

38. 脚部個体1

高坏形土器もしくは器台形土器の脚部。現高4.1cm。色調は赤褐色で内外面より空けられた直径7mmの穿孔が存在する。調整は縦位の宛磨きが施される。胎土は石英（0.5mm）が中量、白色粒子（0.5mm）・赤色粒子

(0.5mm)を少量含む。焼成は良好。

39. 砥石 1

厚さ3.5cmの砂岩製で砥石と思われる。2辺が欠損しているが、元は円形に近いと推定される。片面のみが使用されている。

第6章 まとめ

今回の調査では遺構内一括遺物はなく、いずれも覆土層より出土した。今回は分類にあたって基本的属性に着目した。形式は甕形土器、高坏形土器、脚部片（高坏形土器・器台形土器の脚部片を含む）、蓋形土器について分類した。壺形土器、甔形土器、器台形土器、石器についての分類を行わなかったのは個体数が少ないことと適当な分類基準を持っていなかったためである。また、今回の調査では一括遺物がないため、遺跡内の時間差を独自に表わすことは難しいと考えられる。このため、県内の数少ない古墳時代の遺跡を概観し編年試案としてまとめ上げた品田高志の論文（品田 1990、1992）をもとに時間軸を設定していきたい。

1. 分類

甕形土器

甕形土器はその口唇部形態と頸部の形態を特徴として分類をした結果、A類、B類、C類の3つに分類が可能であった。

・A類（個体2・23・30）

口唇部には面取りがされておらず、内外面に段を作ることにより二重口縁状に形成されたもの。

・B類（個体12・28）

口唇部には面取りがされ、頸部が緩やかに屈曲するもの。

・C類（個体25・35）

口唇部には面取りがされ、頸部が強く屈曲し、いわゆる「くの字口縁甕」といえるもの。個体25のように口唇部に粘土が張り付けられたようになっているものも存在する。

高坏形土器

坏部の形態と下部にある段の強さを基本に分類した結果、A類、B類、C類、D類の4つの類型に分類することができた。

・A類（個体24・26・33）

坏部が大きく広がり、坏部下部に段を形成するものの非常に弱い。坏部下部の段については不明であるが個体24についてもその坏部の形態より同様のものであるかもしれない。

・B類（個体6・32）

坏部がそれ程広がらないもので、やはり坏部下部にくる段が非常に弱いもの。ただし純粋なこの個体は個体32のみであるが、個体6もこの類型と思われる。

・C類（個体5・7）

坏部が大きく広がり、坏部下部に強調された段を形成している。個体7については口唇部が欠落しているため解らないが、個体5を見る限り口唇部が面取りされていた可能性は高いと思われる。

・D類（個体34）

坏部はそれ程広がらないが、坏部中位から下部にかけて強調された段を形成している。C類と同じく口唇部が面取りされている。

脚部片

脚部全体の形態を基本に分類した。その結果、A類とB類に大きく分類することができた。また、この脚部片には高坏形土器のものと器台形土器のものとを含めて考えた。

・A類（個体8・15・20・21・32・38）

裾に行くにしたがってラッパ状に緩やかに広がるもの。今回の調査では脚部片の多くがこの類型であった。

・B類（個体1・3・29）

坏部から一度棒状になり、高さを作ってから急激に広がるもの。

蓋形土器

蓋形土器は2点と出土点数が少ないものの、県内においてもこの形式自体が全般的に少ない。高畑遺跡にて出土した蓋形土器はその形態により2類型に分類できる。

・A類（個体9）

裾にいくにしたがって緩く内彎気味になる。器高は高く、丁寧に作られている。

・B類（個体10）

A類に比べて平坦な形態をとり、器高もそれ程高くはない。

2. 時間軸の設定

先に述べたとおり高畑遺跡のみでの時間軸の設定は困難と思われる。また、徐々にこの時期の資料が増えているとは言え今だ幅年が追えるような状態でない。このような県内の状況にあり品田高志は古墳時代前期の幅年試案を検討している（品田1991 以下「品田試案」と略す）。この中で品田は緒立遺跡の各住居跡出土の土器群と山三賀Ⅱ遺跡を時間軸の基準として新潟県下の幅年を全体的に見渡そうとした。まず、各形式ごとに分類をし、その他の遺跡の一括遺物を介在させて大きく前期を3期に分類した。北陸色の濃密な土器様相の中に畿内系や東海系の土器が流入し北陸系の様相が徐々に薄まる第Ⅰ期（4段階に分類）。東海系土器が主流を占めるようになる第Ⅱ期（3段階に分類）。そして、小型の丸底埴や小型器台が消滅し、中期への過渡期となる第Ⅲ期とした。この考えを基に今回の高畑遺跡について検討していきたい。

甕形土器

・A類

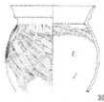


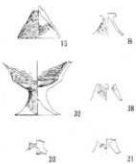


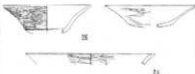



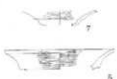
品田試案での甕形土器D類。この類型は第Ⅰ期2段階に出現して、徐々に二重部の幅が狭くなり形骸化し、消滅していくようである。当遺跡においては比較的初期のものと思われる。

・B類

品田試案で甕形土器F類に比定できる。この類型は第Ⅰ期3段階に出現して、前期の終りまで続く。当遺跡にて出土した個体12と個体28は口唇部が広いいため第Ⅰ期の間で作られたと考えられる。

・C類

品田試案ではE類と考えられる。この類型も長く前期の終りまで続くと考えられる。個体25は第Ⅰ期2段階に、個体35は口唇部が形骸化しており第Ⅱ期2段階に比定できる。

甕形土器	A類		高坏形土器	D類	
	B類			A類	
	C類			B類	
高坏形土器	A類		脚部片	A類	
	B類			B類	
	C類				

第21図 遺物分類図 (1/8)

高坏形土器

高坏形土器は坏部のみの分類であり、脚部についての言及を欠くため正確なことは解らないが以下のよう
に比定してみた。

・A類

品田試案においてA類とされているものと思われる。弥生時代後期より存在しており第Ⅰ期3段階まで続
く。

・B類

品田試案にてB類とされているものに比定できる。やはり、弥生時代後期より存在しており第Ⅰ期3段階
まで続く。

・C類

品田試案ではこのような口唇部形態が存在していないためはっきりとしたことは解らないが、弥生時代後
期に存在したものと考えられる。

・D類

やはり、品田試案ではこのような口唇部形態が存在していない。

脚部片

今回この試案に合うような個体は少なかった。しかし、脚部がラッパ状から棒状に変化していくようであ
るので、A類からB類に変遷していったと考えられる。

蓋形土器

出土例が少ないため品田試案においても類別等をされていないため、今回は見送ることとする。

3. まとめ

高畑遺跡出土の土器を品田試案と見比べたわけであるが、ほぼ弥生時代の終末期から古墳時代前期に比定
できそうである。正確な年代等をつき止めることはいまだ新潟県下の資料不足や当遺跡が散布地であり、同
時代性を確定できないなどの理由が考えられるが、この先資料の増加により解決されると思われる。

この高畑遺跡は遺構の性格を特定するものが出土していないため、どのような遺跡なのかも判然としない。
しかし、他遺跡と比べて甕形土器や壺形土器など生活用品が少なく、高坏形土器などの「装飾」の土器が比
較的多い。また、加飾されている唯一の土器である個体22の甕形土器は髹漆が成されているだけでなく、胎
土も明らかに他の遺物とことなり輸入品と考えられる。このことから、何らかの特殊な性格があると考えら
れる。おそらく周辺の調査が進むにつれこの遺跡と隣接する杉之森遺跡の性格が明確になると思われるため、
今後の調査に期待したい。

〈引用・参考文献〉

- 品田 高志 1990 「越後における古墳時代土器の変遷－柏崎平野の中期～後期を中心に－」『柏崎市立博物館 館報』No.4 柏崎市立博物館
- 品田 高志 1992 「越後における古墳時代土器の変遷Ⅱ－前期土器編年の現状と編年試案－」『柏崎市立博物館 館報』No.6 柏崎市立博物館
- 滝沢 規朗 1994 「新井市斐太遺跡群の出土土器について」『新潟考古』第5号 新潟県考古学会
- 田嶋 明人 1991 「土師器の編年－北陸」『古墳時代の研究』6 雄山閣
- 黒埼町教育委員会 1983 『緒立遺跡発掘調査報告書』
- 中之島町教育委員会 1995 『観音寺遺跡』
- 新潟県教育委員会 1976 『北陸高速自動車道 埋蔵文化財発掘調査報告書（焼屋敷遺跡・杉之森遺跡）』
- 新潟県教育委員会 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書（山三賀Ⅱ遺跡）』

抄 録

ふりがな	たかばたけいせき
書 名	高畑遺跡
副 書 名	
巻 次	
シリーズ名	中之島町埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第2集
編 著 者 名	小 林 徳
編 集 機 関	中之島町教育委員会
所 在 地	〒954-0124 新潟県南蒲原郡中之島町中之島町大字中之島3807番地 3
発行年月日	西暦 1999年 3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査機関	調査面積 ㎡	調査原因
		市 町 村	遺跡番号					
高畑遺跡	新潟県南蒲原郡中之島町大字 高畑字畑敷付603番地3館	153648		37°32'09"	138°51'55"	19981014 ～ 19981109	300	居宮広域管義団 地役道整備事業 に伴う事前調査

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項
高畑遺跡	敷布地	古墳時代	土坑 1基 ピット 2基	土師器甕・壺・高環・鉢・磨石。	古墳時代前期の敷布地であり、低地の丘陵上であったと思われる。500mほど西にある杉之森遺跡においても同時期と考えられる遺物が出土しており、関連がある遺跡と推定できる。

写真図版

図版 1



遺跡近景



遺跡周辺風景

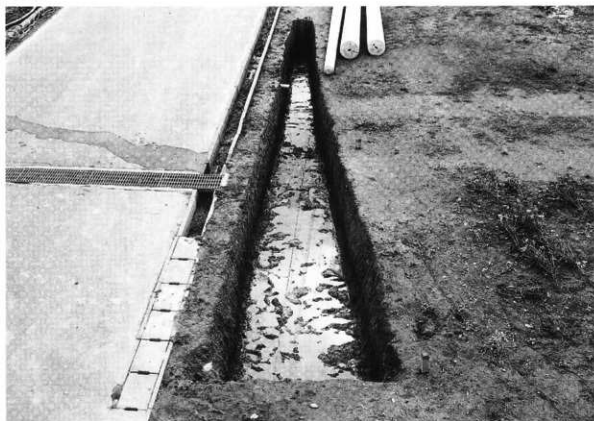
图版 2



A区完掘状况



B区完掘状况



C区完掘状况



遺物出土状况

图版 4



遺物出土状況



基本層序

图版 5

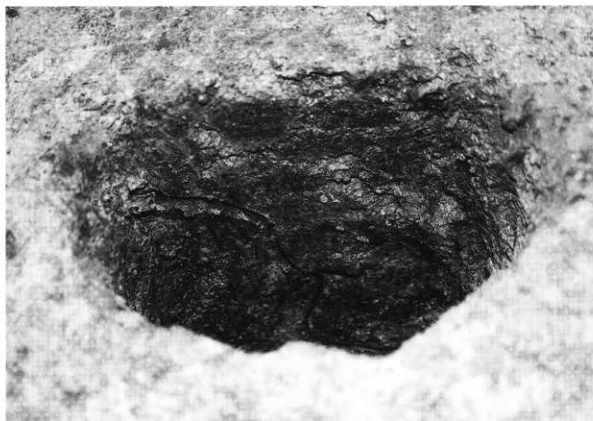


土坑層序

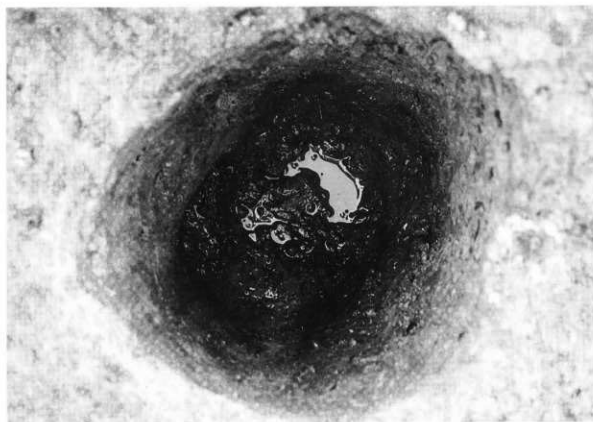


土坑

図版 6



1号ビット層序

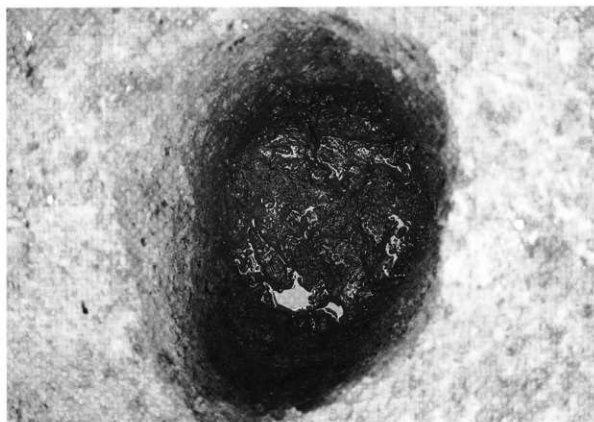


1号ビット

図版 7

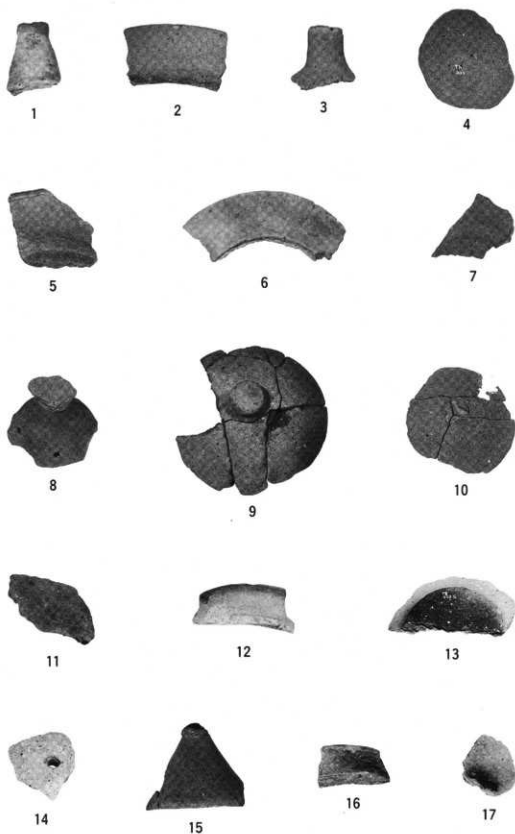


2号ビット層序



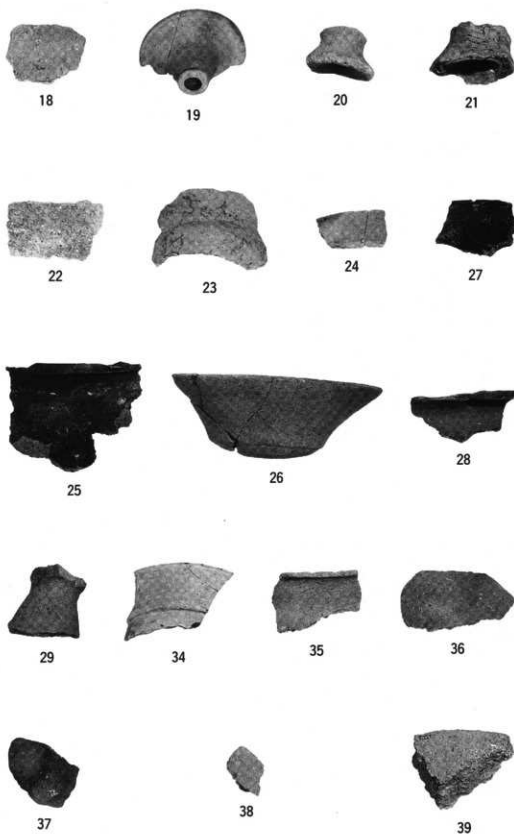
2号ビット

图版 8



遺構外出土遺物 (1)

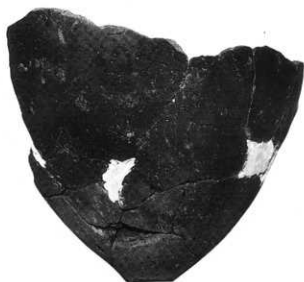
图版 9



遺構外出土遺物 (2)



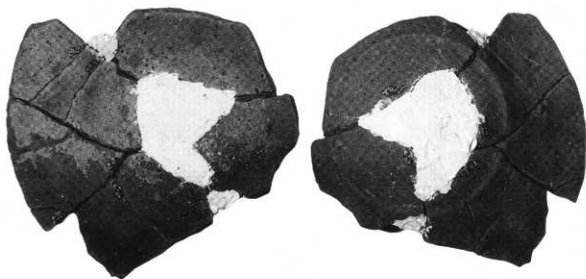
30



31



32



33

遺構外出土遺物（4）



個体35 粉殻痕

新潟県中之島町

高畑遺跡

平成11年3月25日 印刷

平成11年3月31日 発行

発行 中之島町教育委員会

印刷 株式会社北越時報社

☎ (0258) 32-1877